

第5問

次の【文章Ⅰ】は、殷王朝の末期に、周の西伯が呂尚（太公望）と出会った時の話を記したものである。授業でこれを読んだC組は太公望について調べてみることになった。二班は、太公望のことを詠んだ佐藤一斎の漢詩を見つけ、調べたことを【文章Ⅱ】としてまとめた。【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を読んで、後の問い（問1〜7）に答えよ。なお、返り点・送り仮名を省いたところがある。

【文章Ⅰ】

呂尚ハ蓋シ嘗シ窮困シ年老イタリ矣。以テ漁釣ヲ奸モトム周ノ西伯ニ西伯將出獵

ト之。曰ハク所獲ル非龍ニ非ズ豸ニ非虎ニ非ズ羆ニ所獲ル霸王之輔ケナリトイテ於レ是周

西伯カリス獵果遇フ太公ニ於渭之陽ニ與シ語大説ヨク曰ハク自吾先君太公

曰ハク『当リテ下有ニ聖人ニ適ユク也。周以テ興ラント』子真ニ是邪カ吾太公望ムコトヲ子久シト矣。故ニ

号シテ之ヲ曰フ太公望ト載セテ與シ俱ニ歸リ立テ為ス師ト。

(注) 1 奸——知遇を得ることを求める。

2 太公——ここでは呂尚を指す。

3 渭之陽——渭水の北岸。渭水は、今の陝西省を東に流れて黄河に至る川。

4 吾先君太公——ここでは西伯の亡父を指す（なお諸説がある）。

(司馬遷『史記』による。)

佐藤一斎の「太公垂釣の図」について

平成二十九年十一月十三日

愛日楼高等学校二年C組二班

太公垂釣の図

佐藤一斎

謬^{あやま}被^{リテ}文王^ニ載^セ得^テ帰^ラ
 一^{いつ}竿^{かん}風月^ニ与^レ心^違
 想^{おも}君^ガ牧^{ぼく}野^や鷹^{やう}揚^{やう}後^後
 夢^ハ在^{ラン}磻^{はん}溪^{けい}旧^旧釣^{てう}磯^き



狩野探幽画「太公望釣浜図」

日本でも太公望が釣りをする絵画がたくさん描かれました。

不本意にも文王によって周に連れていかれてしまい、

釣り竿一本だけの風月という願いとは、異なることになってしまった。

思うに、あなたは牧野で武勇知略を示して殷を討伐した後、

磻溪の昔の釣磯を毎夜夢に見ていたことであろう。

幕末の佐藤一斎（一七七二～一八五九）に、太公望（呂尚）のことを詠んだ漢詩があります。太公望は、七十歳を過ぎてから磻溪（渭水のほとり）で文王（西伯）と出会い、周に任せます。殷との「牧野の戦い」では、軍師として活躍し、周の天下を盤石のものとなりました。しかし、その本当の思いは？

C 佐藤一斎の漢詩は、【文章Ⅰ】とは異なる太公望の姿を描きました。

ある説として、この漢詩は佐藤一斎が七十歳を過ぎてから昌平坂学問所（幕府直轄の学校）の教官となり、その時の自分の心境を示しているとも言われています。

〈コラム〉

太公望Ⅱ釣り人？

文王との出会いが釣りであったことから、今では釣り人のことを「太公望」と言います。

【文章Ⅰ】の、西伯が望んだ人物だったからという由来とは違う意味で使われています。

問 1 波線部(1)「嘗」・(2)「与」の読み方として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解

答番号は

1

・
2

(1) 「嘗」

⑤ ④ ③ ② ①

かつて
ころろみに
すなはち
なめて
なんぞ

(2) 「与」

⑤ ④ ③ ② ①

あたへ
あづかり
ここに
すでに
ともに

問2 二重傍線部(ア)「果」・(イ)「当」の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ

一つずつ選べ。解答番号は ・ 。

- (ア) 「果」
-
- ⑤ 約束どおりに
- ④ やつとのもので
- ③ 思いがけず
- ② 案の定
- ① たまたま

- (イ) 「当」
-
- ⑤ ただ～だけだ
- ④ きつと～だろう
- ③ どうして～しないのか
- ② ちよ～どのようだ
- ① ぜ～ひとも～すべきだ

問3 傍線部A「西伯将出獵ト之」の返り点の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤の

うちから一つ選べ。解答番号は

5。

- | | | |
|---|---|--|
| ① | 西伯将 _ニ 出 _レ 獵 _ト 之 _之 | 西伯将に獵 _か りに出 _{いで} て之 _を ト _{うらな} ふべし |
| ② | 西伯将出 _レ 獵 _ト 之 _之 | 西伯の将出 _{いで} て獵 _り して之 _を ト _ふ |
| ③ | 西伯将出 _レ 獵 _ト 之 _之 | 西伯将 _は た獵 _り に出 _{いで} て之 _を ト _ふ か |
| ④ | 西伯将 _レ 出 _レ 獵 _ト 之 _之 | 西伯獵 _り に出 _い づるを將 _{ひま} ゐ _て 之 _を ト _ふ |
| ⑤ | 西伯将 _ニ 出 _レ 獵 _ト 之 _之 | 西伯将に出 _{いで} て獵 _り せんとし之 _を ト _ふ |

問4 傍線部B「子真是邪」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

6

- ① 我が子はまさにこれにちがいない。
- ② あなたはまさにその人だろうか、いや、そんなはずはない。
- ③ あなたはまさにその人ではないか。
- ④ 我が子がまさにその人だろうか、いや、そんなはずはない。
- ⑤ 我が子がまさにその人ではないか。

問5 【文章Ⅱ】に挙げられた佐藤一斎の漢詩に関連した説明として正しいものを、次の①～⑥のうちから、すべて選べ。解

答番号は 7。

- ① この詩は七言絶句という形式であり、第一、二、四句の末字で押韻している。
- ② この詩は七言律詩という形式であり、第一句と偶数句末で押韻し、また対句を構成している。
- ③ この詩は古体詩の七言詩であり、首聯しゅれん、頷聯がんれん、頸聯けいれん、尾聯びれんからなっている。
- ④ この詩のような作品は中国語の訓練を積んだごく一部の知識人しか作ることができず、漢詩は日本人の創作活動の一つにはならなかった。
- ⑤ この詩のような作品を詠むことができたのは、漢詩を日本独自の文学様式に変化させたからで、日本人は江戸時代末期から漢詩を作るようになった。
- ⑥ この詩のように優れた作品を日本人が多く残しているのは、古くから日本人が漢詩文に親しみ、自らの教養の基礎としてきたからである。

問6

【文章Ⅱ】の



で囲まれた〈コラム〉の文中に一箇所誤った箇所がある。その誤った箇所を次のA群の①～③のうち

から一つ選び、正しく改めたものを後のB群の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は

8

9

A群

8

- ① 文王との出会いが釣りであった
- ② 釣り人のことを「太公望」と言います
- ③ 西伯が望んだ人物だったから

B群

9

- ① 文王がトうらないをしている時に会った
- ② 文王が釣りをしている時に会った
- ③ 釣りによって出世しようとする人のことを「太公望」と言います
- ④ 釣り場で会った友のことを「太公望」と言います
- ⑤ 西伯の先君太公が望んだ人物だったから
- ⑥ 西伯の先君太公が望んだ子孫だったから

問7 【文章Ⅱ】の傍線部C「佐藤一斎の漢詩は、【文章Ⅰ】とは異なる太公望の姿を描きました。」とあるが、佐藤一斎の漢詩から

うかがえる太公望の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

- ① 第一句「謬りて」は、文王のために十分に活躍することはできなかったという太公望の控えめな態度を表現している。
- ② 第一句「謬りて」は、文王の補佐役になって殷を討伐した後の太公望のむなしさを表現している。
- ③ 第二句「心と違ふ」は、文王に見いだされなければ、このまま釣りをするだけの生活で終わってしまったという太公望の回想を表現している。
- ④ 第二句「心と違ふ」は、殷の勢威に対抗するために文王の補佐役となったが、その後の待遇に対する太公望の不満を表現している。
- ⑤ 第四句「夢」は、本来は釣磯で釣りを楽しんでたかったという太公望の望みを表現している。
- ⑥ 第四句「夢」は、文王の覇業が成就した今、かなうことなら故郷の磻溪の領主になりたいという太公望の願いを表現している。